

○「人・農地プランを活用した農業振興に向けて」 (奈良県吉野町農業委員会)

担い手への
農地利用の
集積・集約化

遊休農地の
発生防止・
解消

新規参入の
促進

その他(農業
委員会の体
制強化等)

【農業委員会の体制】(平成29年7月20日移行)

○新体制:農業委員12名、農地利用最適化推進委員6名

○旧体制:農業委員18名



吉野町

奈良県



1 地区の特徴・状況、課題

○吉野町は、奈良県のほぼ中央に位置し、北に大和平野をひかえ、北部の竜門山地と南部の吉野山地などに囲まれ、その間を西流する吉野川の中流域に位置する面積95.65km²のまちです。中山間地域であり、兼業農家がほとんどで作付けは水稻が中心である。特産の農産物としては、促成ワラビ、大和当帰、ジャンボピーマン等の他、町内3酒造による、地元産の酒米「吟のさと」を使用した日本酒造りも行っている。認定農業者・新規認定就農者は7名で、ぶどう、しめじ、しいたけ、種苗、たまご、レタス、きゅうり等を栽培している。課題としては、人口6,856人に対する65歳以上の人口割合が50%を超え、優良な農地を次世代に引き継ぐにも後継者が不足している点であり、町外からの農地の借り入れ希望もあるが、まとまった農地がなく断念するケースが多い。狭小・不整形・急傾斜という条件から、経営計画が立たず新規就農者が育たない。

2 課題解決に向けた活動(農地利用の最適化の推進の取組と工夫)

○農業委員・農地利用最適化推進委員・地域の協力者の方を中心とした班を設置し、次の取り組みを実施。

○吉野町上市地内において、昭和58年に農家の収益増加を目指す観光農園としての役割を果たすべく整備を行った自然休養村みどり村の所有者の高齢化が著しく、今後の生産活動及び維持管理が年々厳しい状況にあることから、人・農地プランを取り入れ、約8haの農地の所有者等に対し、アンケートを実施。アンケートを行うに際しては、事前に趣旨説明等を記載した文書を事務局より発送。

3 活動(取組と工夫)の結果

○アンケートを行うに際しては推進会議を開催し、進め方やアンケート内容、日程等について話し合い、所有者へは事前に趣旨説明等を記載した文書を事務局より発送。アンケート方法は、回収率を上げるため、戸別訪問とし、アンケート内容以外のことについても情報交換を行った。

○人・農地プランの検討を通して、農業委員・農地利用最適化推進委員と地域の協力者の方との意見交換のきっかけが生まれ、これまでにはない将来に向けた生産組合の取り組みについての活発な話し合いにつながった。今後は、アンケート結果を踏まえ、更なる意見交換の機会を設ける。